

## YAサポーター'sレポート2014「時間を忘れる本」

中央図書館では2014年6月から9月まで、6人がサポーターとして活動しました。おすすめの本を紹介してくれました。

(書名をクリックすると、ご覧の画面から蔵書検索ページに移動します。)

### [『紙コップのオリオン』市川朔久子／著（講談社）](#)

主人公・論里は、北中創立記念行事の実行委員の副委員長になってしまいます。行事は校庭に星座を描く、キャンドルナイト。実行委員をしていくうちに友情が深まっていくような、ほっこりするお話です。

私が好きな所は、お話の中で論里の母親が家出してしまうところです。母親はウェブ上で好き勝手な投稿をしていて、そのコメントがおもしろくて好きです！

誰でも気軽に読めるような楽しいお話なので、ぜひ読んでみてください。

### [『ソードアート・オンライン』川原 礫／著（アスキー・メディアワークス）](#)

「これはゲームであっても、遊びではない」。

ゲーム内で死ぬことは、リアルでの死。そのゲームは、ソードアート・オンライン。「ナーウギア」という頭にかぶるヘルメット型の次世代ゲーム機でプレイする。始めると、意識がゲームの中に入って、仮想の体を現実の体と同じように動かせる。そのゲームは、始まった日にログアウト不能になった。それは故障などではなく、本来の仕様であるらしい。外部からの救助、内部での死亡は現実での死。脱出方法は唯一、ゲームをクリアするだけ。そんな過酷な状況で、迫害されているビーターと呼ばれる主人公・キリトは、このゲームをクリアできるのか？クライマックスの度肝を抜く展開が面白いし、ラストシーンも感動する、とてもいい小説です。

### [『ぼくたちと駐在さんの700日戦争』ママチャリ／著（小学館）](#)

毎回繰り広げられる、おバカな高校生とおとなげのない駐在さんのおバカないたずら合戦。涙あり、笑いありで、いつ読んでもぼくたちと駐在さんたちの繰り広げる、いたずらの世界に引き込んでくれます。

いつになっても終止符が打たれないいたずら合戦・・・。

終止符は打たれるのか!?

[『図書館戦争』有川浩／著（角川書店）](#)

「メディア良化法」が施行され発言の自由がなくなってしまった世界が舞台です。活発な部下・笠原郁に振り回される上司・堂上篤と、一癖ある仲間たちが繰り広げるラブ・コメディです。

面白いし読みやすいので、本がニガテな人でも読めると思います。何回読んでも面白くて、飽きません。笑いたいときや、胸がトキメク本が読みたいと時にピッタリな本です。ぜひ読んでほしいです。

[十二国記1『月の影 影の海 上・下』小野不由美／著（新潮社）](#)

真面目な女子高生・中嶋陽子は、突如学校に現れた男に「おむかえにまいりました。」と言われてどこか知らない世界へと連れていかれてしまった。男とは離れ離れになり、恐ろしい怪物に襲われ、人には裏切られ……。でも、「絶対、生きて帰る。」そんな陽子を待ち受けている運命とは!?また、陽子の決断は?ラスト必読!!十二国記シリーズ第1巻。「魔性の子」を第0巻とし最新作の「丕緒の鳥」まで。

シリーズの名の通り、さまざまな国の物語が読めます。中国の文化を取り入れた物語なので、古代中国の昔話や文化を知っていると「おっ!」と思ったりするところもあり楽しめると思います。冒険したい人、ゾクゾクしたい人、ワクワクしたい人にオススメです。

[『クリック』佐藤雅彦／著（講談社）](#)

短編集の魅力は、時間と時間の中に少しずつ読めることですが、私は、この本が面白くて一気に読んでしまいました。短いのに一つ一つちゃんと個性があって、心にジーンとくるので、オススメです。

これは超・短編集なので、2・3ページでおわる話も多く、本がニガテな人でも、スラスラ読めてしまうのが特徴です。面白い話も多いですが、考えさせられる話もあります。

何回読んでもほわっとあったかくなれる、とてもいい短編集です。